

加盟団体便り

宮崎県サッカー協会の現状と今後について

一般社団法人 宮崎県サッカー協会

1. はじめに

宮崎県サッカー協会（MFA）は2009年4月に掲げた「MFAの2015年の目標像」を総括し、昨年3月新たにMFA中期目標と長期目標を策定し、県サッカーファミリーにむけてMFAの方向性を示した。（詳細については宮崎県サッカー協会のホームページ「中期・長期目標」を参照してください）

少子化による人口減、高齢化といった状況の中、競技人口の現状維持も大変な世の中である。そんな中サッカーに関係する「ファミリー」はわずかながらの減ですんでいる。厳しい環境には変わりがないが二巡目の宮崎国体も視野に入れたMFAの普及・育成・強化の面での現状、今後は報告していきたい。

2. 普及

普及のターゲットは3つ、キッズと女子と障がい者サッカーである。

キッズの普及は今後のサッカーファミリー増加、充実に向けて最重点のカテゴリーと考える。MFAでは近年4種（小学生）からキッズを独立させキッズ委員会を立ち上げた。活動としては「キッズサッカーフェスティバル」「キッズ巡回指導」を計画的に開催している。さらなる普及のためにはキッズリーダーの育成、JFA公認D級コーチの取得者を増やすことがあげられる。

フェスティバルの開催や巡回指導は、保護者も含めた多くのサッカーファミリーを生み出す基幹となるものなので、さらなる情宣活動をしていきたい。

そのフェスティバルを充実させるためには中身の充実も求められる。JFA公認のコーチの数を増やすことでキッズや保護者の皆さんが「また遊びに行きたい」と思うようなプログラム、コーチングができる。キッズリーダーやD級コーチはサッカーコーチの入り口の所なので負担もそれほどかからない。この場を借りてご案内したい。

2022年栃木国体から少年女子が正式種目として実施されることになり、女子の育成・強化は急務となっている。女子は本県に於いて競技人口が少ない上にチーム数も少ない。当然チームの中での競技力の差が出てくるので指導も難しくなる、というのが現状である。3種までは男女混合での活動は可能であるが、徐々に男女差が出てくる年代なのでしっかりした指導が必要になってくる。対策としては男子同様カテゴリー別にトレセンを実施している。これについては育成の項で説明したい。

MFAはJFLのテゲバジャーロ宮崎と共同して障がい者サッカーの普及、発展にも着手している。2017年「ユニファイドスポーツフェスティバル（プレ）」を開催した。「ユニファイド」とは障がいの有無を超えて一つになるという意味である。2019年1月の開催は企業や関係諸団体の協賛も増え規模が拡大した。

本県からはデフサッカーの日本代表や女子代表候補が選出されている。2026年には全国障がい者スポーツ大会が宮崎で開催される。取り組むべき課題は少なくないがひとつひとつ克服していく姿勢である。



3. 育成

県の技術委員会が中心となってU-17までの選手の育成活動を行っている。

4種年代(U-11 U-12) 3種年代(U-13 U-14 U-15) 2種年代(U-16 U-17)で展開している。※JFAのトレセン制度が整備されていて、MFAの地区トレセンから県トレセンそして九州、全国までつながっており、選手の「個」の育成が基本的なテーマである。

地区トレセン・県トレセンを実施するには公認コーチの配置が義務づけられている。選手はJFAのトレーニングを地区においても受けることができるのでチーム内のみならずトレセンにおいてスキルを上げることができる。

選手はもちろんのこと指導者の育成にも力点を置いている。先ほど述べたトレセン制度では指導者のライセンス保持が義務づけられているためどうしても人数が必要になる。そこで本県では地域コースしかないB級コーチ養成会を自県単独でできるようにしており、受講しやすい環境を整えている。しかしながら現状は指導者の数がまだまだ不足している。ライセンスが義務づけられていることで指導の水準を満たすことはできるが、上位のライセンスを取得するには費用と時間が必要となる。特に女性の指導者が少ないため女子トレセンはほとんど男性のスタッフが指導に当たっている。女子の指導者については早急に解決すべき事項の一つである。

審判の育成に関しても2019年度よりサッカー審判のアカデミーを立ち上げる。若手審判員を短期間に集中的に指導し、技術や知識を習得させ、1級審判員を目指せる人材発掘を行う。また、審判活動を通じ、積極的に地域社会に参画し、地域社会の発展に貢献する人材と人間性の育成を目指すものである。その人材が宮崎国体、その先のW杯で活躍することを目標に育成をしていく。

※「日本サッカーの強化、発展のため、将来日本代表選手となる優秀な素材を発掘し、良い環境、良い指導を与えること」を目的に始まったこの制度は、男子ですでに25年を経て(女子は2005年度より本格的整備が開始)、さまざまな変革を行いながら、組織的にも活動内容においても充実したものとなり、トレセンを経験した選手から各年代の日本代表選手の多くが選出されるようになりました。
 拠出：JFA 日本サッカー協会

4. 強化

国体の結果を見れば成年男子が近年連覇を果たし、福井国体では3位という好成績を残した。JFLや九州リーグ、大学チームの連携がよくどのチームも快く選手を出してくれるところが強みである。

少年男子はレベルの高い九州の中で6割以上の確率で本戦進出を果たしている。育成の集大成として位置づけて本大会でもベスト8以上の成績を目標としている。有望選手の県外流出が見られるが、本県に残った選手たちだけでも結果が残せるように分厚い育成をして強化に結びつけたい。

成年女子が未だ本大会出場を果たせていない。選手層、サポート体制など厳しい環境、現状にあるが前述したように早急に改善に努めたい。

トレセン活動と並行して各種年代(2種、3種、4種)で充実したリーグ戦を実施している。2種3種は全国につながるリーグで、実力の接近した相手とゲームをすることでチーム力アップを図っている。

チーム別に見れば、3種年代では日章学園中学校の全国制覇は記憶に新しい。また、セレソン都城やアリーバ宮崎等もクラブチームとして九州大会上位に位置している。

2種年代では日章学園高校が全国レベルを維持し、宮崎日大高校が九州新人大会で2年連続ベスト4に入るなど力をつけてきている。古豪鵬翔高校も巻き返しを図っている。

1種ではJFLテグバジャーロ宮崎がJリーグ入りをめざしソフト、ハード両面で充実してきている。(Jリーグ百年構想クラブとして認定された)JFLのホンダロックも「日本一のアマチュアチーム」として活躍しており九州リーグのJFC宮崎も戦力を整えJFL入りを射程距離内に入れている。また九州大学リーグの宮崎産業経営大学も九州の雄としての地位を固めている。

今後益々の発展が期待される楽しみなチームがたくさんあるといった現状である。



総合型地域スポーツクラブ

第8回宮崎県エンジョイスportsフェスティバル



日 時:平成30年11月10日(土) 9時00分から15時30分 会 場:都城市高城運動公園

○本事業は教職員互助会・宮崎県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会・宮崎県スポーツ施設協会・宮崎県体育協会の主催事業であり、今回で8回目の開催である。

第6回(H28)までは県内各ブロックでの分散開催であったが、第7回(29年度)より高城運動公園を会場とし、周辺施設を活用しての開催としている。各イベントへの参加者が一堂に会して総合開会式及び閉会式ができることで、フェスティバルとしても盛会に行えると好評であった。

当日は、好天にめぐまれ、子どもから高齢者まで年齢を問わずスポーツを楽しむという目的を達成させることができた事業であった。

内 容

- 総合開会式
開式のことば【総合型 SC 連絡協議会 金川 敏洋 会長(串間 SC)】
あいさつ【教職員互助会 富井 浩二 常務理事】
準備運動(1130 体操)【推進委員】
- 各会場にて競技開始
- 閉会式
あいさつ【実行委員長 七村 兼治 委員長(都城ぼんち SC)】
- 抽選会



総合型地域スポーツクラブ (1)

メラスポチャレンジクラブ



事務局 白石 阿子

西米良村は、宮崎県の中央南部に位置し人口わずか1,155人の小さな村です。現在、メラスポチャレンジクラブには約213名の会員がいます。スポーツがしたい・スポーツが好きという方が会員として活動しています。

子どもから高齢者まで様々なスポーツを愛好する皆さんが世代を越えて、初心者から上級者までそれぞれのレベルに合わせて参加できるクラブです。

【具体的な活動】…………… ●スポーツ活動 ●生涯学習教室

【スポーツ活動】

ヨガ教室・ボディメイキング教室・シェイプアップ教室は村外から講師の先生を招へいし、月に1・2回実施しています。

- ・ヨガ教室 (毎月第1・3水曜日)
- ・ボディメイキング教室 (毎月第2水曜日)
- ・シェイプアップ教室 (毎月第4水曜日)



ヨガ教室



ボディメイキング教室

その他にも、6月に村民ミニバレーボール大会(4人制)・10月に9人制バレーボール大会をメラスポ主催で行っています。地区ごとにチームを組むので、幅広い年代の方が楽しんでいます。

また、村民が自主的に活動しているクラブスポーツを紹介します。



バレーボール



ソフトボール

【生涯学習教室】

生涯学習教室では、小学校プールを借用し村内指導者の方による水泳教室や、書道教室、村外から講師の先生を招へいし、月に1回実施する「鹿革クラフト教室」など様々な教室を実施しています。



書道教室 (毎週日曜日)



鹿革クラフト教室 (毎月1回)



水泳教室 (夏休み期間中)

【連携事業】<ふれあいリフレッシュ事業>

社会福祉協議会と連携し、村内各地区を訪問。高齢者を対象にニュースポーツ体験を実施。



オーバルボール



スカットボール

<村内スポーツ大会との協同>

舗装路以外の山野を走るトレイルランは、全国でも人気の競技の一つですが、西米良村市房山を舞台に、毎年スカイトレイル大会が催されています。メラスポチャレンジクラブの会員も、選手・スタッフとして関わっています。



指導の現場から

県立都城工業高等学校
自転車競技部監督
大庭 伸也氏



前号では、日章学園中学校サッカー一部監督の花房亮太氏を紹介しました。今回は、県立都城工業高等学校自転車競技部監督の大庭伸也氏にお話を伺いました。

事務局 全国総体・全国高校選抜自転車女子500mタイムトライアルで優勝した岩本杏奈選手をはじめ、全国トップクラスの選手を輩出している高校の指導者としてお話を伺います。全国トップクラスの選手が育つまでのご苦労があったと思いますが、何が一番大変でしたか。

大庭氏 自分自身が自転車競技を好きなもので、自分が本当にやっていきたいことがいろんな人を巻き込んで形になってきました。宮崎に恩返しという気持ちでやらせていただいているので、大変さというよりも満足感の方が大きいです。縁があって宮崎に来ているのは何かしらの意味があると思って頑張っているところです。

事務局 日頃から指導されている基本的な理念は何ですか。

大庭氏 やはり「人」ですね。強くなる選手はいろんな意味で人として優れていますし、人をつくり上げていかないといい選手には育たないと思います。それから粘り強さというものを日々、生徒には説いています。何が起きるか分から

ないのがレースですから最後まで諦めない気持ちで大事にして欲しいです。

事務局 もっと広く自転車競技を知ってもらうために、自転車競技の魅力についてお伺いしたいのですが。

大庭氏 自分の力で最大限のスピードを感じられるというのが魅力ですね。最大時速で70km～80km出ますが、そのスピード感や風を自分の体で受けられるというところが魅力ですね。ロード競技に関しては山あり谷ありで、人生と同じできつい場面がありますし、きつい思いをしたからこそ下りがあります。本当に人生を描いているような感じです。それに対する達成感を得られるのが自転車競技だと思います。

事務局 これからの都城工業高校自転車競技部の目標は何ですか

大庭氏 全国大会における団体での総合優勝です。確かに今回、指導者として日本一をとることができましたが、個人での優勝です。負けてしまった団体種目もありますので、ここはあくまで通

過点です。まだまだいろんな指導者の方から多くのことを吸収して、総合優勝を目標にしています。

事務局 最後になりましたが、7年後に2巡目宮崎国体を迎える本県スポーツ界が更なる競技力向上を目指す上で、何か考えがあればお聞かせください。

大庭氏 いろんな意味で人、選手はもちろん指導者、そして何より支える人材の確保が必要だと感じています。そして物や施設の整備が必要不可欠です。

それから国体に出場するというこの意味合い、これから国体に出たいという思いが出てくるのが大切です。自転車競技も選手が増え

てきましたが、支える部分を増やしていくことが連盟という組織としての課題であると感じています。個人でできることには限界があります。いろんな人の意見を聞き、手伝ってもらい、巻き込んでいく。チーム宮崎として一丸になることが大切だと思います。

事務局 ご協力ありがとうございました。

大庭先生のご健勝と都城工業高等学校自転車競技部のご活躍を祈ります。



取材を終えて

宮崎県総合運動公園内の自転車競技場にて取材を行いました。年度末でご多用にもかかわらず時間を割いていただきました。自転車競技と宮崎を愛してやまない気持ちが伝わってくる時間でした。

チーム宮崎ペンリレー

ソフトボール指導を振り返って

宮崎県ソフトボール協会会長
押川 尚生

昭和 38 年に日本体育大学に入学し、ソフトボール部に入部した時からが私のソフトボール人生の始まりでした。大学の成績は、三塁手で 1 番打者として 2 年と 3 年の新潟国体と岐阜国体に、関東代表として 2 年連続出場し、2 年連続準優勝することが出来ました。大学 4 年生の時、第 1 回全日本大学ソフトボール選手権大会が行われ、日体大は男女アベック優勝し、その開会式では主将として選手代表宣誓をさせて頂き良い思い出になりました。



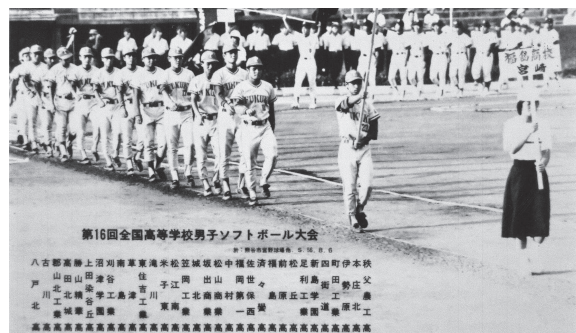
昭和 56 年福島高校が全国高校総体大会に初出場した年の部員

大学卒業の年に埼玉県で国体が開催され、埼玉県チームの補強選手として勧誘を受けましたが、宮崎県教員採用試験で高校と中学の保健体育の教員試験に合格していたので、帰県してソフトボールの指導をしたいとの思いで埼玉を断り、昭和 42 年 4 月に、日南市立飫肥中学校に採用され、教員生活が始まりました。飫肥中学校は、スポーツの盛んな学校でしたが、ソフトボール部は人数が少なく練習する場所も狭い状況でしたので、近くの飫肥小学校の校庭を放課後開放して頂いて練習し、部員も少しずつ増えてきました。飫肥中には 6 年間勤務し、日南地区中体連大会で 3 回優勝し県大会に出場しました。

昭和 48 年 4 月からは、北郷町立北郷中学校に 4 年間勤務しました。その 4 年間のソフトボールの成績は、日南地区中体連で優勝が 2 回あり県大会に出場しました。また、夏の中体連が終わった後、野球部等から長距離走の強い生徒を集め、にわかで駅伝部を作り、日南地区駅伝大会に参加し、4 年目に 18 年ぶりに日南地区で優勝し、県中学校駅伝大会に出場しました。北郷中は町内唯一の中学校でしたので、町民体育大会で潮嶽神社に伝わる棒踊りを全校男子で演技させ、ま

た成人祝賀駅伝では地域でチームを編成し参加させる等、町内の体育行事にも積極的に参加させ、関係者からも感謝されました。

昭和 54 年、「第 34 回日本のふるさと宮崎国体」が開催されましたが、当時高校男子ソフトボール部があったのは、中邑芳邦先生が監督する日向工業高校と久米宰次先生が監督する宮崎商業高校の 2 校だけで、1 回も本国体出場が無く、未成熟競技として位置づけられていました。そのような時、高校男子ソフトボールの指導者として宮崎国体に貢献したい思いから、平成 51 年、義務制学校から県立学校教員への転籍試験を受検し、平成 52 年 4 月から県立福島高等学校に勤務することになりました。そして県内で 3 校目となる男子ソフトボール部を創設することになりました。部創設に当たり、何よりも苦労したのは、部員確保でした。特に串間市には小学生のチームが無く、ソフトボールは初めて経験する選手ばかりで、ソフトボールのおもしろさや野球とは違うスピード感などソフトボールの魅力を教えてやることに苦労をしました。「3 年後に宮崎国体に出場」を目標に部員勧誘に努めました。用具の購入、ユニフォームの新調等の苦労もありましたが、意識の高い部員も徐々に集まってくるようになり部員も増えてきました。また日向合宿や県外遠征等の為に必要なマイクロバスも保護者会名義で購入し、強化していきました。



昭和 56 年福島高校が全国高校総体大会に初出場した時の開会式の入場行進

福島高校に赴任した昭和 52 年から国体少年男子チームの監督を 13 年間務めさせて頂きましたが、本国体に初出場できたのは宮崎国体の前年の長野国体か



日南農林高校 平成元年 第8回全国高等学校選抜ソフトボール大会に初出場した年の部員

らでした。日向工業高校、宮崎商業高校、福島高校の合同選抜チームで、国体九州予選に参加し、念願の代表権を獲得することが出来ました。その後、宮崎国体、栃木国体、滋賀国体、島根国体、群馬国体、奈良国体、沖縄国体と8回出場することが出来ました。戦績は、宮崎国体では、福島県に勝利しましたが、2回戦で新潟県に敗退しベスト8でした。翌年の栃木国体では準決勝で地元栃木県と対戦し、惜しくも1対0で敗退し第3位でした。その他は全て1回戦敗退でした。未成熟競技から始まった少年男子でしたが数年の間に九州地区国体予選を勝ち抜き本国体に出場できるレベルに成長できたのは、日本体育大学ソフトボール部が宮崎国体前の昭和52年から春、夏に日向市で合宿してくれ、宮崎県のソフトボールのレベル向上に大きく貢献してくれたことと、県内チームの合同合宿、熊本県・高知県等の先進県に遠征し確実に実力をつけてきたことに尽きると思います。

福島高校としての県高校総体初優勝は、福島高校勤務5年目の昭和56年でした。現・県ソフトボール協会事務局長、永野通夫先生が昭和54年に、福島から日南工業に転勤され、県内で4校目の男子チームを立ち上げられ、計4チームで県高校総体を実施し、初優勝しました。その年は、県内に6チームに満たない県は隣県と全国総体出場をかけた試合する規約になっていて、全国高校総体出場をかけた鹿児島県の隼人工業高校と対戦し、勝利することができ、初の全国高校総体に参加しました。翌年からは、小林野尻分校と県立都城ろう学校（現・都城さくら聴覚支援学校）が加わり計6チームになり、県高校総体で優勝したら全国高校総体に直接出場することが出来るようになりました。昭和56年に初優勝してから3年連続優勝、一年於いて4回目の優勝もしました。昭和57年3月には、第1回全国高等学校選抜ソフトボール大会が開催され、第1回に続き2年連続で宮崎県代表として出場しました。昭和60年まで9年間福島高校に勤務しましたが、その間の成績は、県高校総体優勝4回、2位4回、

新人大会優勝6回、2位3回、全国選抜大会出場2回でした。日南農林高校に私が昭和61年に転勤した後も福島高校は2年連続県高校総体で優勝し全国高校総体に出場し、また、全国選抜大会にも出場しました。

昭和61年から日南農林高校に11年間勤務しました。日南農林高校にも男子ソフトボール部が無く、福島高校と同じように部を立ち上げることから始まり、6年後に宮崎県で開催された全国高校総体出場を目指し選手と共に練習に励みましたが、夢を叶えることは出来ませんでした。11年間の成績は、県高校総体準優勝2回（九州大会2回出場）、3位6回、新人大会優勝1回、3位5回でした。新人大会で優勝した年度は、全国高校選抜大会予選を兼ねていて、第8回全国高等学校選抜ソフトボール大会に出場することが出来ました。福島高校で特に活躍した選手には、第18回全国高校総体で4本のホームランを打ち、第1回世界ジュニソフトボール選手権大会の日本代表選手に選ばれた永山格尚選手、第22回全国高校総体で一試合15奪三振記録を樹立した、折田一広投手がいます。日南農林高校では、第51回広島国体（監督・平本修先生）で初優勝した宮崎県選抜チームの中堅手、迫畑晃司選手がいます。



日南農林高校 平成元年 第8回全国高等学校選抜ソフトボール大会に初出場した時の開会式入場行進

平成9年4月からは西都商業高校に三年間勤務し、女子ソフトボール部の監督に就任、3年目の県高校総体で第3位に入賞できました。

監督として33年間、保護者の理解と全面的な協力、勤務した地区ソフトボール協会の支援、各学校の監督の先生達との交流等に今でも心から感謝しています。

現在は、県協会の理事長を経て会長の立場にありますが、「感動は無限大 南部九州2019」の成功と、2026年の二巡目国体に向け微力ながら尽力したいと思っています。

新 平成31年公益財団法人宮崎県体育協会 新春関係者の集い



- 1 日時 平成31年1月16日(水) 18:00～
- 2 会場 MRTmicc ダイヤモンドホール
- 3 参加者 賛助会員を中心に本県選出国會議員関係者、県、県議会、市町村関係加盟団体等 192名



春山豪志会長挨拶



河野俊嗣 宮崎県知事祝辞



蓬原正三 宮崎県議会議長祝辞



郡司行敏 副知事 宮崎県競技力向上対策本部長乾杯



様々な立場の皆様が、それぞれの立場で
和やかな雰囲気での意見交換